

2013年度パトロールマニュアル

1. 警備本部

朝練前の準備

- 全ての鍵の開錠、水道・ガスの元栓を開栓
- 資器材の設定・設置および破損・不備の確認および準備
 - ・レスキューボード、レスキューチューブ
 - ・AED
 - ・トランシーバー
 - ・救急箱
 - ・双眼鏡
 - ・PWC
 - ・電話機
 - ・ラジオ
 - ・告知板
 - ・担 架（バックボード含む）
- 警備本部内、外側の清掃を行う。

朝練後からパトロール開始準備

- 8：00 監視活動“開始”の放送
- 遊泳旗の掲揚
- レスキューボードの設置
- 気温、水温の計測
- 告知板の設置
- パトロールログの記入
- 関係機関へ電話連絡
 - 役 場（水曜のみ）／ 観光案内課
 - ヘルシープラザ ／ プール（弁当の個数併せて）
- ゴミ出し（7／20～8／31 の期間は組合の収集期間で、それ以外は一般と同じ）

パトロール後の片付け

- 17：00 監視活動“終了”の放送
- 遊泳旗降納
- 設置した資器材の撤収および手入れおよび片付け
- パトロールログのまとめ
（電話機、ラジオ以外のもの）
- AED、トランシーバー、双眼鏡をヘルシープラザへ返納
- 告知板に翌日の日にち干満を記入し、チェンジルームへ戻す

夕練後の片付け

- 鍵の施錠、水道・ガスおよび電源コンセントの閉めや使用確認を行う。
- 電球を1ヶ所のみ翌朝まで点灯させておく

2. パトロール

1. 禁止事項

(1) 遊泳区域内において

- 花火、バーベキューなど火気の使用
- サーフボードやスキムボード、ソフトボードでのサーフィン
(ボードの素材に関係なし)
- フィンの付いたボディーボードの使用
- 釣り
- オールの使用
- 船舶、釣り船、水上バイク、シーカヤックなどの使用および遊泳区域内への侵入
- 休み台を揺らし転覆させること
(アンカーロープを引っ張る行為も禁止する)
- 真鶴側テトラポット、熱海側の岩に登ること
(波高および海水位により判断する)
- ペットの入水、放し飼い
- 喫煙 (喫煙エリアでは可能)
- 他来場客の迷惑となるような行為
(硬球でのキャッチボールなど) は状況によって注意する
- 遊泳区域ロープに対し係留する、破損させること
- 足ひれの使用

※サーフボードのフィンは内側にして移動してもらう

(鋭利なため他来場者との接触事故を避ける)

※海の家で貸し出している物は基本的に禁止にはできないので、お客さんの混み具合を考え、状況によって、移動してもらうなどの処置をとる

(2) 遊泳区域外について

- 遊 泳
- 足ひれ無しボディーボード

3. 安全確認

遊泳者の安全が不確かなときや自分の判断に確証が持てないとき、遊泳者が遊泳区域外に流されているときは、安全を確認しに行く

(1) 問題なしの場合⇒OK サインを送る (両手で大きく丸を作る)

※遊泳者が大丈夫だといってもあくまで自分の判断で対応する

(2) 安全輸送⇒自力で戻ってこれないと判断したとき、レスキューボードやレスキューチューブを使って安全な場所まで連れてくる

(3) レスキュー ⇒ 4. レスキュー発生時の対応に準ずる

4. レスキュー発生時の対応

(1) レスキュー方法

別紙「レスキューボード・レスキューチューブの実施手順」に準ずる

※事故発生時からの時間の経過を記録しておく

※救急隊に引き継ぐ時は、配送先の病院の名前を聞いておく

※他のポジションの者は、気をとられないように自分のポジションに集中する

※次からの事故を防ぐために、レスキューレポートを書く（時系列で）

※レスキュー発生時は、人手が足りなくなっているので、シフトのローテーションを一時停止する場合もある。それ以降のシフトは、B1の指示に従う

(2) CPRの統一

基本的にベーシックライフセーバー、別紙「ボード・チューブのレスキュー実施手順」に準ずる

5. 救急車の要請

原則として、EAR（吹き込み）、ECC（圧迫）を行うような状況又はその他の緊急時には救急車を要請する。

※緊急時以外は、警備本部（責任者）の判断で要請する

※救急車の誘導口は何箇所かあるので確認しておく（②参照）

① 要請方法

119に電話をかけ、「湯河原町海水浴場警備本部です。救急車をお願いします」と伝え、

1、患者の名前、年齢、性別

2、患者の容態

3、事故発生時刻

4、救急車を誘導する場所

5、自分の名前

6、携帯電話から掛けた場合は電話番号

を落ち着いて、はっきりとした口調でできる限り正確に伝える

② 誘導口

小道地蔵前、警備本部、福祉会館前、吉浜郵便局前

（海の家を伝えても分からないので、道路沿いの目標物で伝える）

関係機関連絡先

○消 防	1 1 9	(湯河原町消防本部 0465-63-5121)
○海上保安庁	1 1 8	
○警 察	1 1 0	(小田原警察署 0465-22-0110)
		(吉浜交番 0465-62-3674)

○湯河原厚生年金病院	0465-63-2211	○山口外科医院	0465-62-7131
○湯河原整形外科クリニック	0465-64-0632	○湯河原胃腸病院	0465-62-7181

○警備本部	0465-63-1953	○海浜公園プール	0465-63-0480
○ヘルシープラザ	0465-62-1333	○東台小学校	0465-62-3536

○湯河原町役場	0465-63-2111	○湯河原町観光課	0465-63-2111
---------	--------------	----------	--------------

○監 視 長	上村 郁人	080-1278-4222
○副監視長	新井 三華	080-2077-6310
	竹内 梨夏	090-7637-8885

5. ファーストエイド

- 適切な処置を行う
- FA レポートを作成する（大きなケガのみ）
- クラゲ、擦り傷、切り傷等は簡易集計表に記入する

【FA ボックスの主な中身】

- カチリ ⇒ クラゲ刺され
- マキロン ⇒ 消毒
- アルコール ⇒ 消毒
- リバガーゼ ⇒ 切り傷、擦り傷、刺し傷、かき傷の殺菌、消毒、被覆
- 軟 膏 ⇒ 切り傷用
- キンカン ⇒ かゆみ止め
- その他（バンドエイド、テーピングテープ、包帯、ガーゼ、はけ etc・・・）

※使用後、なくなりそうなものは、監視長または副監視長に報告し補充

※薬品を使用する際、必ず患者に確認と許可を取ってから使用

※出血がある場合や、嘔吐等、感染の可能性がある場合は、必ずゴム手袋を着用

※FA を行った後は、必ず手洗いを行う

※救急搬送が必要な患者には、薬品を使つての処置は行わない

6. 迷子の対応

（1）迷子の搜索依頼の方法

- パトロールやタワーに保護者が来た場合、警備本部を案内し対応する
- 迷子の特徴などを聴取

- | | | |
|------------------|---------|-------|
| a.名 前 | b.年 齢 | c.性 別 |
| d.体 格 | e.服 装 | f.髪 型 |
| g.持っているもの（浮き輪など） | | |
| h.最終目撃ポイント | i. 発生時分 | |

- 警備本部からトランシーバーで、全てのポジションに迷子の搜索を要請し、聴取した事項を伝達する
⇒それでも見つからない場合、放送を使って来場者に迷子搜索を協力
- 放送後、発見した場合は放送にて発見の報告を行い、またすべてのポジションに伝達する
- 保護者に対し、今後気を付けるように注意を促す

（2）迷子保護の場合

- ポジションについているときに迷子を発見したら、警備本部内の人に応援要請し、警備本部で保護する
- 放送で保護者を呼び出す（名前、年齢、性別、体格、服装、髪型、住所、保護者の名前、持っているフロートの特徴、その他特徴を伝える）
- 保護者が見つかったら、今後気をつけるように注意を促す
- 迷子レポートを作成する

7. 呼び出し

- メモに書く（名前、住所、呼び出し場所、呼び出したい人の名前）
- 警備本部に連絡し、放送する
- 呼び出しは、1件につき100円もらう

8. 放送事項

- 放送する際は、周囲に一声掛けてから放送する。雑音が混ざらないように、ラジオルームの中で話す
- ※放送は2回繰り返す

9. 笛、シグナルの統一

【笛について】

- レスキュー発生時 ⇒ 笛を力いっぱい1回長くピーーと吹き、
事故発生（緊急事態発生）を周りに知らせる。

- マスレスキュー発生時 ⇒ 笛を力いっぱい3回長くピーーピーーピーーと吹き、事故発生（緊急事態発生）

を周りに知らせる。または、シーバーを用いてレスキューレスキューレスキューと言う。

- 他のパトロールを呼ぶ場合⇒笛を短くピッと一回吹く。

- お客さんに注意をする場合に使用する（拡声器等では声が届かない時等、必要な場合のみ）

※お客さんに不快感を与えないよう、笛は極力使わない

※笛は常に吹けるようにしておく

【シグナルについて】

- 沖でピックアップ時

（1）アシスタントリクワイヤアが必要な場合⇒手を大きく横に振る

（2）問題無い場合⇒両手で大きく丸を作る

他、ベーシックに準ずる

10. トランシーバーの使い方

- スイッチを入れ、音量を最大にする
- チャンネルが合っているか確認する
- 通信できるかラジオチェックを行う

※電源を入れた後や電池交換後は、必ずラジオチェックを行う

- トランシーバーの背を風上に向け、風の音が入らないようにする

※電池がなくなりそうになったら、ベースに連絡して次の交代時に持ってきてもらう

※予備の電池をベースに置いておく

※電池の残量は、交代時に確認する

11. 各種レポート

- （1）パトロールログ

○8:00、13:00に記入する

- 当日のガードメンバーの名前を記入（バディーの人は、バディーについている人の後ろに名前を書く）
- 気温、水温、風の強さ・向き、波の高さ、潮の流れ、遊泳者数を記入する
- ガード終了後、その日の体制表（ポジション、ガードの数など）を記入する
- コメントは、その日パトロールに入ったメンバーが、その日の状況がわかるように記入する

（２）FA レポート

- 傷病者の名前、住所を記入
- どのような症状かを記入する
- 怪我をしている場合、どこで怪我をしたかを記入する
- どのように処置したかを記入する
- 時刻を記入する

（３）迷子レポート

- 迷子の名前、住所、保護者の名前を記入
- 日付、時刻を記入
- 引き取り人の名前と時刻を記入

（４）レスキューレポート

- レスキューした人の名前、住所を記入し、どんな状況だったかを記入
- どの場所でおこったかを記入
- 時刻を記入する
- どのように対処したかを記入する

1 2. その他

落とし物

- 貴重品以外の拾得物は警備本部で保管する
（浮き輪、サングラス、ゴーグルなど）
- 保管期間はパトロール終了日までとする
- 貴重品（財布、携帯電話、鍵等）は、その日のうちに警察へ届ける
※後日、持ち主より連絡が来た場合は警察へ届けたことを伝える

1 3. 参考

（１）タワーの設置方法

【設置の際に必要なもの】

- ・タワー
- ・パラソル
- ・土のう
- ・スコップ
- ・ポーチ（ポケットマスク、バンドエイド、ゴム手袋、ペン、メモ用紙、かゆみ止め）

※かゆみ止めはクラゲの対処として使用する

- ・シーバー（ベースからポジションに向かう時にラジオチェックをする）
- ・双眼鏡
- ・チューブ

※その日の干満を考えて、その時間に最もベストな位置に設置するよう心がけ、タワーが倒れないように風上側に土のうを置き固定する

※風の強い日には、タワーが倒れる可能性があるので、パラソルはたたむ

※遊泳客にタワーにタオル等をかけさせない

※混雑時は、朝練の前に全てのタワーを出しておき、場所を確保する

（２）ボードの設置方法

【設置の際に必要なもの】

- ・ボード
- ・ボードラック
- ・スコップ
- ・チューブ

※その日の干満を考えて、その時間にベストな位置に設置するよう心がけ、ボードラックが倒れないように砂を掘って、ボードラックをいれ固定する

※風向きに対し、平行になるように設置する

（３）フラッグ

組合長、観光課、責任者、監視長の判断で決める

- ・遊泳可⇒青色
- ・遊泳注意⇒黄色
- ・遊泳禁止⇒赤色

※ロープに巻きつかないように注意し、はっきりと見えるように一番上まで揚げる

※看護婦の方がいる日は日赤の旗も揚げる

（４）看板の設置方法

- ・熱海側岩場付近（基本遊泳区域外の４箇所⇒河口横の入り口、熱海岩の左右、ロープ間）に遊泳禁止の看板をたてる。このとき、拡声器を使って遊泳区域内で泳ぐように促す。シーバーを持っていく。
- ・岩に波がかぶって見えにくいところには岩注意の看板をたてる

※熱海側の看板の設置場所、遊泳区域外の状況、人数をベースに報告する

- ・真鶴側テトラポット、区域ロープに遊泳禁止の看板を立てる

(5) エリアフラッグの設置

- ・台風などの影響で波が高くて、遊泳区域を狭めるときや、ロープが切れた時は、遊泳区域を赤／黄のツートンカラーのフラッグで区切る

(6) ログ・告知板の作成

- ・チューブを持って海に入り、腰くらいの水深の所で水温計を3分ほどつけて水温を計る。その際に海の状況も把握する
- ・干満の時刻、気温、水温、遊泳状況、日付、潮まわり（潮見表を見て確認する。）を記入する